

編集者のことば

本号は、本研究所のプロジェクト研究である「大都市の環境と地域社会に関する総合的研究」の一環として行われた研究の成果としてまとめられた論文7編及び投稿論文1編、ならびに公開講演会記録から編集した。

まず、高林幸司・星旦二・藤原佳典・高橋勇悦「都市高齢者の主観的健康感」は、東京都23区在住の高齢者を対象にした調査データを分析・検討することにより、主観的にみた健康指標である主観的健康感とその地域格差ならびこれに関連する社会的要因を明らかにした。

綿祐二・山崎秀夫「在宅要介護高齢者の介護者のQOL指標に関する研究」は、在宅介護者の介護発生から介護生活受容までをとりあげ、介護生活が介護者の日常生活にどのような影響を及ぼしたのかについて、その実態を明らかにするとともに、介護者の介護生活におけるQOLの指標化の可能性について検討を試みた。

中谷友樹「疾病・健康水準の空間分析」は、分析的医学地理学の立場から疾病の空間的クラスター、死亡率の地図分析ならびに感染症の空間的流行モデルを課題にとりあげ、疾病・健康水準の空間分析の動向とその基本的な分析態度ならびに留意点を整理して提示したものである。

星旦二・福本久美子・藤原佳典「健康な地域づくり（ヘルス・プロモーション）の活動効果と活動方法論」は、WHOが提起したヘルス・プロモーションの立場から、熊本県阿蘇郡蘇陽町を対象にヘルス・プロモーションの活動効果を量的質的の両面から追跡・評価するとともに、その実践方法を明らかにしようと試みたものである。

申連植・沢田大輔・秋山哲男・山川仁「高齢者・障害者対応型の交通システムの評価」は、高齢者・障害者専用の交通手段であるスペシャルトランスポートサービスを対象に、利用者の立場からみた「サービスの質」の評価を行うとともに、費用・効果分析により運行主体間の違いを分析したものである。

福島達也・秋山哲男「歩行空間における高齢者自損事故に関する研究」は、屋外歩行空間における高齢者の転倒・転落・滑りなどによる自損事故を対象に、その実態、自損事故と身体機能との関連性ならびに自損事故の予後の生活や外出行動に与える影響について分析したものである。

天野徹・高橋勇悦「大都市の構造変動に起因する町内会・町内社会の変化に関する研究」は、近年の東京における社会構造の再編と地域社会への影響に着目して、特にドラマティックな変動をみたインナーシティエリアに位置する新宿・墨田の両区における町内社会および町内会の変化を分析するとともに、その変化の方向性にみられる違いと地域社会特性との間にみられるその関連性について考察したものである。

つぎに、投稿論文で、石田頼房「森鷗外の都市計画論」は、鷗外の『衛生新篇第五版』の「都市」特に「新街造設ノ計畫」と「家屋」をとりあげ、鷗外の都市計画に関する知識と見解、およびそれが当時の都市計画論議の中で占めていた位置について検討を試みたものである。

第三は、都市研究所の第9回公開講演会記録である。これは、都市研究所が都市研究の成果を都民に公開する目的で1988年度から毎年催しているもので、1996年度は「次世代時代における大都市東京の構造・機能・役割」をテーマに開催した。

1997年9月

星 旦 二
福 岡 峻 治